

第5回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

議事次第

日時：平成29年5月12日（金）

9：45～11：45

場所：航空会館 702+703 会議室

1. 開会

2. 議事

（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について

（2）その他

3. 閉会

配付資料一覧

資料 1 国立公園満喫プロジェクトの取組状況

資料 2 国立公園満喫プロジェクトを進めていく上での考え方

資料 3 国立公園満喫プロジェクトの今後の進め方

参考資料 1 選定 8 公園ステップアッププログラム 2020
(第 4 回有識者会議資料)

参考資料 2-1 国立公園別訪日外国人利用者数推計値等
(第 4 回有識者会議資料)

参考資料 2-2 先導的モデルとなる国立公園の選定について
(第 3 回有識者会議資料)

参考資料 2-3 国立公園満喫プロジェクト実施箇所の選定にあたっての基本的な考え方
(第 3 回有識者会議資料)

参考資料 2-4 実施箇所の選定にあたってのメルクマール
(第 3 回有識者会議資料)

参考資料 3 国立公園満喫プロジェクト有識者会議 委員名簿

国立公園満喫プロジェクトの取組状況

(1) 広域連携

(2) 国と地方の連携

(3) 民間事業者との連携

(4) 公共施設の民間開放

(5) 引き算の景観改善

(6) 利用料等を保全に還元する仕組み

(7) プロモーション

(1) 広域連携① (国立公園周辺を含むルート設定)

① 広域周遊観光ルートとの連携

・ 広域周遊観光ルートのモデルコースへの国立公園の組み込み

(例)・「縁の道」: 大山隠岐国立公園など

・「温泉アイランド九州広域観光周遊ルート」:
阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園など



② ファムトリップの実施

- ・ 6月の日光国立公園を皮切りに、8公園において、受け入れ体制や各種コンテンツの充実を目指し、海外に強いエージェントやメディア等を招致してファムトリップを実施予定 (地域関係者からなるWGにて検討)
- ・ 国立公園内だけでなく、公園区域外を含むルートを検討
- ・ 東北観光推進機構や山陰インバウンド機構など、広域組織とも連携し、PR等も実施予定 (ファムトリップの成果を広域観光周遊ルートに組み込むこと等も検討)

(参考) 日光国立公園におけるファムトリップスケジュール(予定)



※十和田八幡平: 7月頃プレファムの実施を予定、その他の公園: 5月中を目途に進め方を整理予定

(1) 広域連携② (国立公園と温泉地)

■ 温泉の利用状況

- 平成28年度の利用者約 1 億3,200万人
- 近年、国内外からの宿泊者が増加傾向
- 観光地としてのポテンシャル大

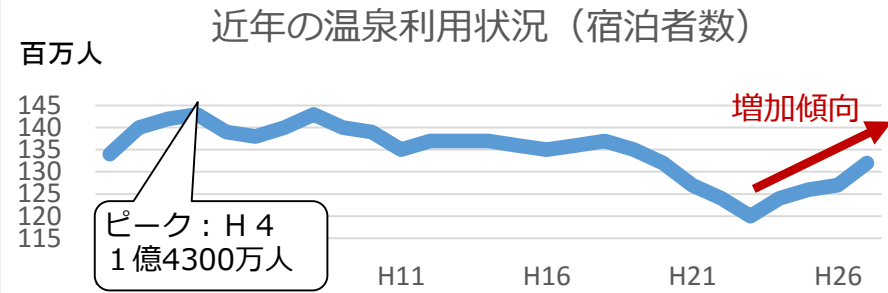
① 「全国温泉地サミット」開催

温泉地の首長が集まり、意見交換を行い、連携を強化

② 民間との協力

「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」※への協力等

※ 温泉地を起点に地域の食・自然・歴史をめぐるツーリズム

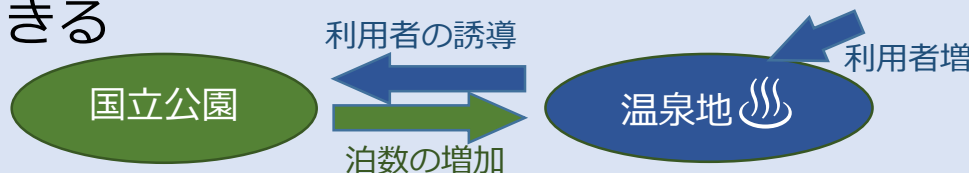


地獄蒸し (別府市)



■ 今後の展開

- 国立公園内及び周辺には多くの温泉地あり
- 連携した取組により、温泉地から国立公園へ誘導、国立公園のプログラム充実による温泉地での泊数増加などの相乗効果が期待できる

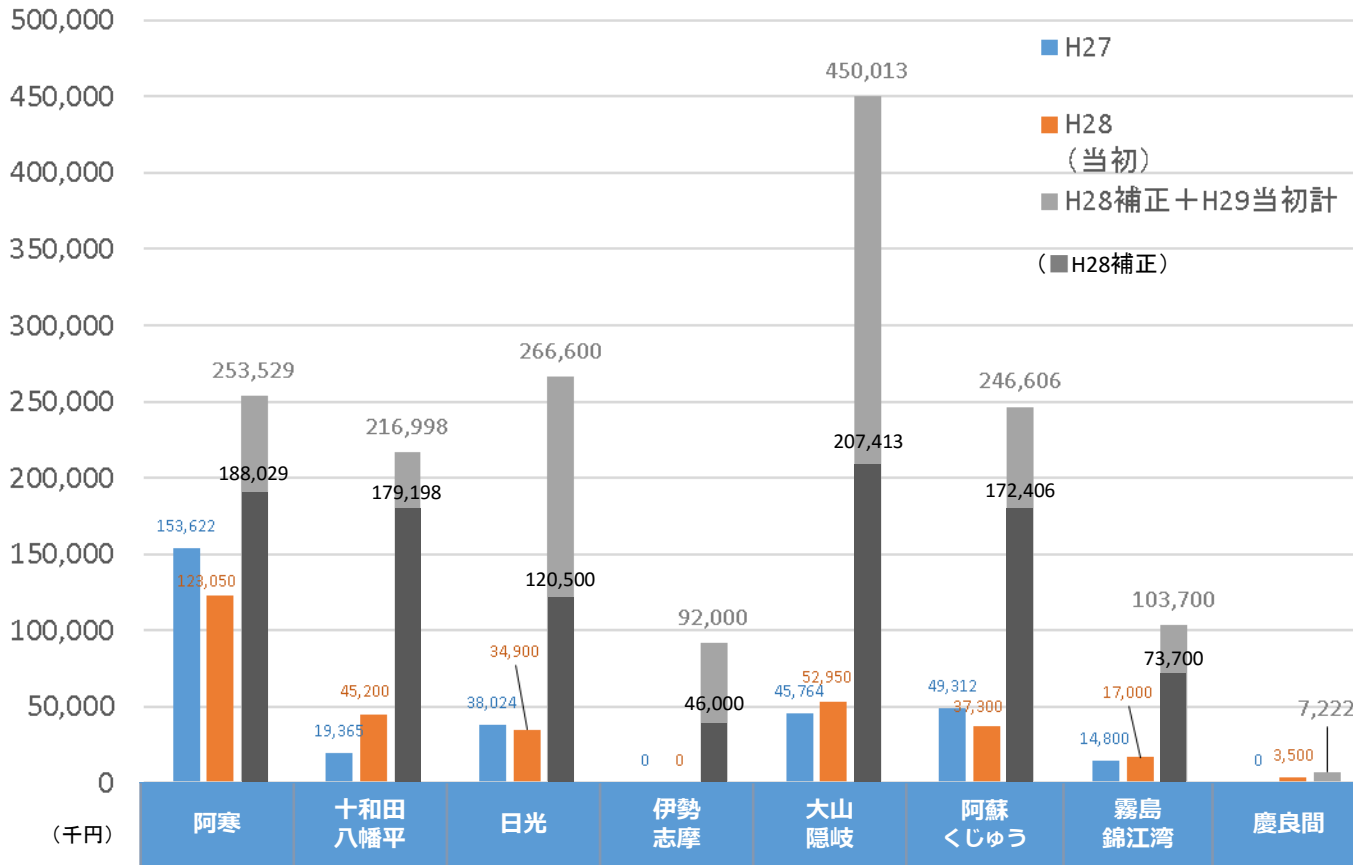


(2) 国と地方の連携①

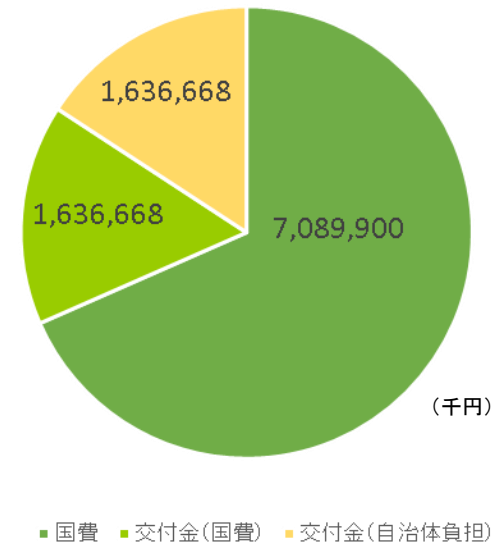
①選定8公園関係道県交付金活用状況（自然環境整備交付金）

- ・ 国立公園満喫プロジェクト整備費総額10,363,236千円（H28補正 + H29当初） ※自治体負担含む
- ・ 国立公園満喫プロジェクトの実施により、選定8公園関係道県の交付金活用額が増加
- ・ 道県費による国立公園の整備を実施していなかった自治体が、本交付金を初活用
- ・ H29の交付金要望額は交付額の約2.5倍

○自然環境整備交付金比較グラフ（国費）



事業費割合
(H28補正 + H29当初)



(2) 国と地方の連携②

②他省庁による支援メニュー等の活用状況

■ 十和田八幡平国立公園におけるファムトリップ等の実施

- ・ 関係三県が東北観光復興対策交付金を活用し、新たなツアーコンテンツの開発、ファムトリップ等を実施

■ 日光国立公園における景観改善

- ・ 国交省交付金を活用して、日光駅～世界遺産周辺までのアクセスルートにおいて電線地中化を実施中

■ 大山寺地区における景観改善・利用環境の充実

- ・ 内閣府交付金を活用し、廃屋を撤去しつつカフェや物販機能を有する「山の駅（仮称）」を整備予定
- ・ 内閣府交付金を活用し、廃業中の民間施設をツアーデスクや休憩所等にリニューアルし、文化庁補助金を活用し大山寺の魅力を紹介する映像制作を実施予定

■ 阿蘇くじゅう国立公園におけるアクティビティ開発

- ・ 内閣府交付金を活用し、インバウンドを含む交流人口の拡大を図るため、世界的な発信力のあるモンベルと連携して、ジャパンエコトラックコース認定に向けた機運醸成・アクティビティ開発等の事業を実施予定

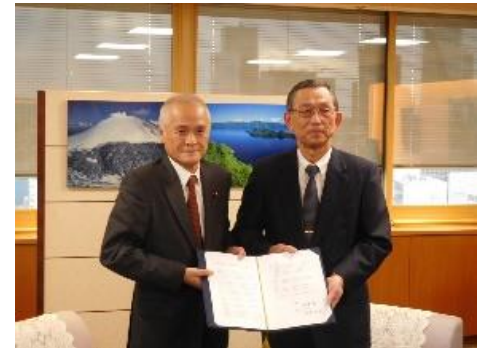
(3) 民間事業者との連携

① REVICとの連携協定締結

- ・環境省と地域経済活性化支援機構（REVIC）との連携協定を締結し、ファンドを活用した国立公園の民間事業者の支援や事業再生等に連携して取り組む

<連携事業の例>

- －十和田八幡平国立公園における玉川温泉の事業再生
- －阿蘇くじゅう国立公園の復興支援等



② 観光協会等の連携

- ・日光国立公園内の関係観光協会等が連携し、日光国立公園内に散在する観光地、日光・鬼怒川・湯西川・塩原・那須を結ぶバス（日光・那須満喫ライナー）の試験運行を、H29年5月13日～6月4日の期間の土日（計8日間）実施
- ・JR日光駅ツーリストインフォメーションセンター（JR東日本大宮支社・日光市・日光市観光協会の三者で運営）において、日光国立公園全体の情報発信強化として、那須エリア等のパンフレットも設置



(3) 民間事業者との連携

③ オフィシャルパートナーとの連携

- ・ 環境省と企業が協力し、国立公園の魅力を世界に発信する国立公園オフィシャルパートナーシップを31社と締結。
- ・ HP、機内誌等での国立公園の紹介や、旅行商品の造成・販売が行われているほか、観光庁が作成した国立公園満喫プロジェクト8公園の魅力を紹介する動画を5月より成田空港で放送開始し、ANA、JALの機内でも6月より放送する方向で調整中。
- ・ H29.4に栃木デスティネーションキャンペーンの全国宣伝販売促進会議を開催（全国の旅行会社を集めたプレゼンテーションや商談会、現地視察を実施）
※プレゼンテーション及び現地視察では、国立公園内（中禅寺湖、湯元、那須平成の森フィールドセンター等）についても紹介



(4) 公共施設の民間開放

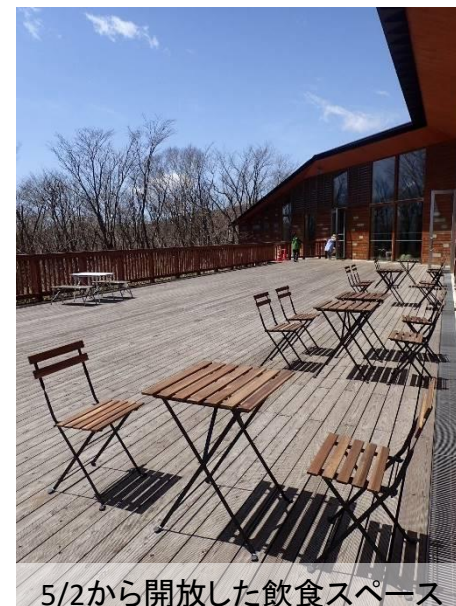
① 天空カフェの設置

- ・伊勢志摩国立公園において、英虞湾の景色が一望できる横山展望台に、民間のカフェを導入
- ・H29年度中の施工完了を目指し、現在設計中
- ・公募により民間事業者を選定予定



② 那須平成の森フィールドセンターでのカフェスペース設置

- ・地元在住デザイナーの助言を受け、イス・テーブル等を設置し、5/2より飲食スペースとして開放
- ・H29.5~6頃より、地元カフェ等による出店形式での飲食提供を行うカフェスペースとして試験的に開放予定



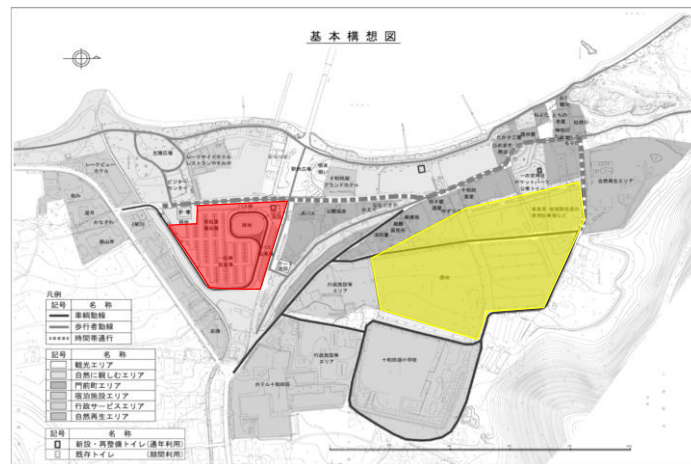
(5) 引き算の景観改善①

① 十和田湖畔の休屋地区における景観改善

【十和田八幡平国立公園】

- 休屋地区において、廃屋を含むエリアにおける園地、駐車場の再整備等による景観改善に向け、地元関係者と調整中。平成29年度に基本設計、平成30年度に工事予定。

【十和田八幡平NP】 休屋地域における再整備計画



- 駐車場を含む園地の再整備
- 意見交換会により園地再整備内容を検討中

② 大山寺地区における景観改善

【大山隠岐国立公園】

- 大山寺地区において、地元自治体が内閣府の交付金を活用し、廃屋を撤去しつつカフェや物販機能を有する「山の駅（仮称）」を整備予定



(5) 引き算の景観改善②

③ その他の国立公園における廃屋対策の状況

【阿寒国立公園】

- ・ 地元関係者において川湯温泉街の再生・活性化について、勉強会などを実施し廃屋の対策について検討中。

【日光国立公園】

- ・ 湯元集団施設地区内の利用者が集中するバスロータリーに面したガソリンスタンドに対し、環境省において撤去に向けた手続き中。



【阿寒NP】川湯温泉街の廃屋



【日光NP】ガソリンスタンドの廃屋

④ 岩手山地域登山口看板整理

【十和田八幡平国立公園】

- ・ 岩手山の主要登山口に乱立する各種標識、看板を整理統合にむけ関係自治体と調整中



岩手山焼走り登山口

⑤ 電線の地中化

【日光国立公園】

- ・ 国交省交付金を活用して、日光駅～世界遺産周辺までのアクセスルートにおいて電線地中化を実施中



(6) 利用料等を保全に還元する仕組み

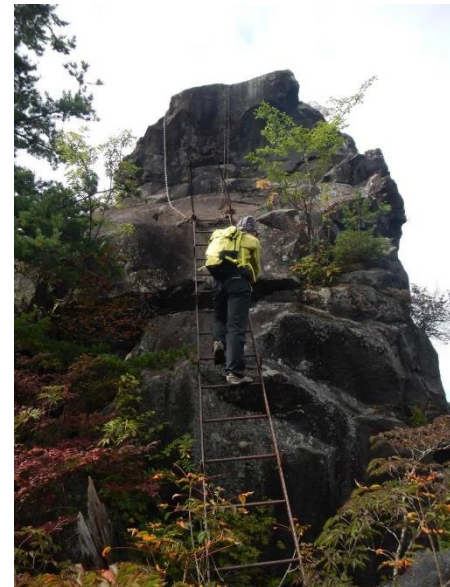
① 草原フィールドミュージアム

- ・ 阿蘇くじゅう国立公園において、希少な植物が生育する草原を柵で囲った上で一般開放し、入場者に草原の保全・再生に活用するための環境保全協力金を求める
- ・ 平成29年度に具体的な実施体制等を検討し、平成30年度より着手予定



② 旧修験道のガイド付き限定利用

- ・ 十和田八幡平国立公園の休屋地区において、十和田信仰を体感するため旧修験道を新たな歩道として整備し、ガイドを通じて歩道の維持管理等に活用するための協力金を集める仕組みを構築
- ・ 平成29年度中に関係者との調整、設計等を行い、平成30年度中に供用開始予定



③ ロッカー、シャワー使用料

- ・ 大山情報館の登山基地機能強化として、ロッカー、シャワールームを新設し、利用者から料金を徴収して管理の充実に充てる

(7) プロモーション

① ブランディング、プロモーション計画の検討

- ・プロモーションを行う重点ターゲットを検討
自然公園利用者数調、インターネット調査等から、出国者数・訪日意向者数を把握し、重点ターゲット国を整理。

(整理の視点)

- ・訪日意向者数のボリュームの大きい国
- ・2016年の国立公園利用率が25%未満の国

※東南アジア（インドネシア、タイ、シンガポール、マレーシア、ベトナム）は、費用対効果の観点から統一的なプロモーションが可能か検討

- ・6月中を目途に国立公園全体のブランディング、統一マークを策定予定。
- ・その上で、ブランドの海外発信、ターゲット国を考慮した誘客プロモーション、統一マークでの看板の整備、地域へのブランド浸透講習等を予定。

中国・ドイツ・イギリス

訪日意向者ボリュームが大。国立公園を核に、訪日意向を高める訪日前プロモーションを強化

韓国・香港・アメリカ

訪日数が100万人を超。国立公園利用率が低い。訪日前・中のプロモーションを強化

② SNSの活用、多言語化

- ・国立公園公式SNS（インスタグラム、Facebook）開設。平成29年度よりライティングによる英語の記述に移行。

※インスタグラム：フォロワー約2900（4月末時点）4月以降投稿への「いいね！」等増加

- ・英語版国立公園リーフレットもライティングにより作成予定。案内看板等も同様に英語版の作成を準備中。

(中国・韓国語についても今後検討)



国立公園満喫プロジェクトを進める上での考え方 ー有識者会議の議論を踏まえてー

◎日本の国立公園の特徴

- ・国立公園が我が国の自然保護の根幹を支える制度として果たしてきた役割は大きく、今後も依然として大きな役割を果たしていく
- ・日本の国立公園は、区域の中に人が住み、自然と長い時間をかけて付き合ってきた地域の暮らし、そこで育まれた文化や歴史が根付いており、こうした自然と人間の共生の姿こそが世界に誇る日本のナショナルパークであると言えるのではないか
- ・国立公園は制度の創設経緯からインバウンドを意識したものであり、こうした歴史的経緯を踏まえて今の時代にあった新たな国立公園の姿を考えることが必要

◎基本的な視点

■最大の魅力は自然そのもの

- ・国立公園はそこにある豊かな自然環境が適切に保全されていることこそが魅力であり、地域の観光産業をはじめとする様々な生業を支える資源である
- ・このため、新たに大きな開発を行うのではなく、マイナス要因を取り除くなど、自然そのものの魅力を生かすことにより利用の推進を図ることが重要

■暮らしとともにある国立公園

- ・日本の国立公園は観光地としての価値だけでなく、人が住む場所としての価値がある
- ・人が住むことにより、自然とのつきあいの中で積み上げられてきた文化や歴史がその地域の魅力となる
- ・地域の観光業者やそれを支える様々な地域の産業が経済的に持続可能となるモデルをつくりあげることが必要

■体積で考える

- ・観光客数だけでなく一人当たりの消費額を掛け合わせた体積（観光消費額全体）で考えることが必要
- ・多様な階層のニーズに対応した施設やサービスを提供することが重要
- ・頂点を引き上げることで裾野が広がっていく

■国内需要も大事

- ・人口減少が進む中、国内旅行消費額は今後大きくは伸びないが、シェアとしては圧倒的に多い
- ・インバウンド対策を意識することにより、外国人旅行者の新たな視点による魅力

の発見、ユニバーサルデザインの浸透など、観光地全体のサービス向上につながる効果が期待

■広域的な視点で考える

- ・利用者の目線から国立公園を核として広域的な観光圏を形成していくという視点が重要
- ・国立公園へのアクセスルートはまっすぐ最短距離ではなく、移動中も自然と共生する暮らしが垣間見える多様なルート設定が考えられる
- ・温泉や食などと一体となったルートやメニューを充実させ、地域経済を活性化させることが重要

◎具体的な課題

■利用者目線の情報発信とホスピタリティの向上

- ・専門的で難解なガイダンスを排し、利用者が楽しみながら教養を高めることができるような内容とするよう検討
- ・多言語表記の際は、日本語の翻訳ではなくネイティブのライターが書き下ろすなど、その言語を母国語とする外国人が読んで違和感のない内容とすることが必要
- ・展望台やビジターセンターなど美しい景色を眺められる場所でゆっくりと休憩できるよう、カフェやベンチなどを整備することが必要

■民間活力による利用者層に対応した宿泊施設、キャンプ場の整備

- ・高い交通費と安い宿泊施設の不マッチが生じている
- ・民間活力を生かして、自然環境に配慮した小規模で上質な宿泊施設の誘致を検討
- ・過去に整備されたキャンプ場は、主に集団生活の体験を意識した作りとなっており、現在の個人旅行客向けのニーズに対応できていない
- ・民間のノウハウを生かして現在のニーズにあったキャンプ場へのリニューアルを進めることが必要

■引き算の景観改善

- ・「衆」から「個」へと変化する観光客のニーズに対応できずに取り残された廃屋などのマイナス要因を取り除くことでプラスに転じていく引き算の景観改善を進める
- ・統一性を欠き乱立する案内看板等については、統一したデザインコードにより整理統合を図る

■利用料等を保全に還元する仕組み

- ・適切な利用料等を徴収することで、自然環境への負荷を抑制するとともに、保全やサービス向上のために必要な資金を確保する仕組みをつくる

現状

- 先進的、集中的に取組を行う公園【8公園】
 - ・公園単位で地域協議会設置
 - ・総合的な施策を展開

- 選定要望をしたその他の公園【8公園】
 - ・公園内の限定した地域において施策を実施予定

- 上記以外の公園【18公園】
 - ・基盤整備や海外発信等を中心に推進

今後

- 先進的、集中的に取組を行う公園【8公園】
 - ・地域協議会を継続し、ステップアッププログラムに基づく総合的な施策を展開

- 個別のエリア、テーマ等で集中的に取組を行う公園
 - ・公園内の限定した地域、または、特定のテーマを持った事業等、熱心な自治体等と連携したコンパクトで効果の高いソフト事業を中心に実施

- 上記以外の公園
 - ・国立公園全体の共通の取組として、基盤整備（WiFi整備、多言語対応、ユニバーサルデザイン化等）や海外発信等を中心に推進



個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組を行う 公園について

満喫プロジェクト推進のポイント

- 日本の国立公園の魅力は豊かな自然 + 人々の暮らしや文化
- これらに関係する人々の協働が重要であり、地域協議会による地域の一体感・盛り上がりが推進の原動力となっている



第4回有識者会議(2/9)での主なご意見

- 1000万人の目標達成のためには、選定 8 公園だけでなく、すでにたくさんお客さんに来ていただいているところを改善しないと目標達成は厳しい
- 熱心な都道府県、市町村と連携し、個別のエリア、ビューポイントに限定した取組も重要
- 公園外も含めた広域的なプランニングが必要
- 適切な多言語化等、外国人の視点に立った基盤整備が必要



満喫プロジェクトによる効果的な取組

先行する 8 公園での取組を踏まえ、目標達成に向けた即効性があり効果的と考えられる取組は以下のとおり

- ・交通事業者や海外にある旅行会社と連携した国立公園PRコンテンツの作成とPR ← 観光庁作成国立公園PR動画のANA・JAL等での放映
- ・海外にある旅行会社や交通事業者と連携した、大都市圏からの誘客のための戦略策定と実行（モデルツアー開発、PR等）
↑ 日光国立公園における公園内周遊バスの試験運行と交通事業者と連携したPR
- ・地元で活動している外国人等による里山文化体験開発を中心とした戦略策定と実行（モデルツアー開発、PR等）
- ・限定エリアを対象とした景観デザインの統一ルール策定や外国人目線に立った二次交通/情報発信の改革等



選定 8 公園の取組を推進しつつ、その成果を活かし、即効性のあるソフト事業を中心とした自治体や民間事業者等との連携プロジェクトを他の公園でも実施

※ハード整備については、ソフト事業に深く関連するものに限定して、予算の範囲内で一部実施

個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組む公園について

今後展開する事業に必要な事項

以下のいずれかに該当すること

- 現在の訪日外国人来訪者数が多いこと
- 大都市圏等の主要利用拠点からアクセスがしやすいこと
- 公園外も含めた広域連携や官民連携により効率的・効果的な成果が見込まれること
- 他地域のモデルとなる先進的な取組であること



以下のすべてに該当すること

- ①自然環境を損なうことのないよう十分な配慮がなされていること
- ②主体的に取り組む意志があり、自主的な予算の確保や関係者との連携体制の構築がなされていること
- ③利用者数又は消費額単価の向上が期待でき、2020年の数値目標を有しており、目標達成に向けた具体的なスケジュールが示されていること
- ④プロジェクトのエリアやテーマが絞り込まれていること（総花的なプロジェクトでないこと）



自治体等の提案を踏まえ、環境省が上記必要事項に基づき「国立公園満喫プロジェクト展開事業」として位置づけ、自治体等と連携してプロジェクトを実施

選定8公園における取組例

慶良間諸島国立公園

美ら海慶良間 ～リゾート・海と島がつくるケラマブルーの世界～

保全活動への参加体験や**入島時の環境協力税の活用**による魅力の向上

- ▶ 入島時に環境協力税の徴収（H29より検討開始）
- ▶ 阿嘉島の養殖施設で育てたサンゴによる自然再生活動の体験



大山隠岐国立公園

日本の大地の成り立ちが刻まれ、神話・信仰が息づく山・島・海～山から海まで多彩な自然の恵みを楽しむ～

公共施設の民間開放など民間活力を活用し、トレッキングや自然・文化体験など様々なアクティビティを手ぶらで楽しめる総合利用拠点を整備

- ▶ 官民連携により、ツアーデスクやロッカー・更衣室の設置、登山用品の貸出、廃屋撤去や空家の活用によるカフェや土産物店などの誘致（H28年度より着手）
- ▶ キャンプ場再整備と民間事業者によるグランピング等の誘致



阿寒国立公園

火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する

自然の保護を大前提とした**新たなアプローチ**によるアクティビティ、**上質で心地よい**滞在空間の創出、アイヌ文化の体感などの推進により原生的な自然の世界を堪能

- ▶ 阿寒湖のマリモ観察ガイドツアー 聖地「釧路川」でのカヌーツアー
- ▶ 眺望を楽しめる場所へのカフェの併設 富裕層をターゲットとした宿泊施設の誘致（H28年度より着手）
- ▶ アイヌの思想・精神に沿ったプログラム

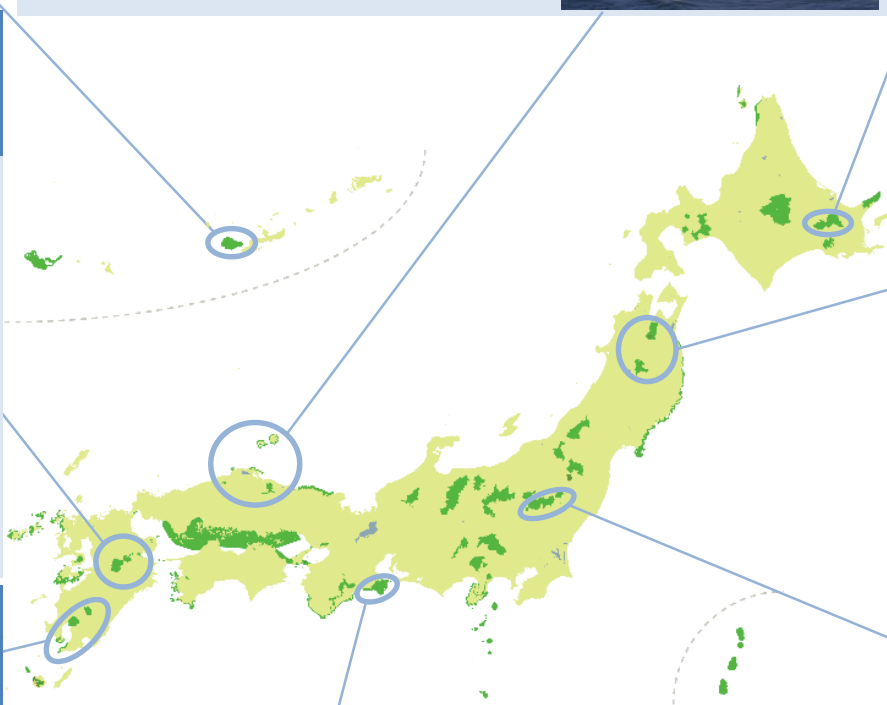


阿蘇くじゅう国立公園

復興の大地 ～草原のかほり、火山の呼吸。人が継ぎ、風と遊ぶ感動の大地～

人の手で引き継がれてきた草原空間を核としたフィールドミュージアム構想を基本とし、**利用料負担金による草原再生**を検討するとともに、火山と草原が作り出す雄大な景観を味わえる体験を提供

- ▶ フィールドミュージアム拠点施設整備の検討（H29より検討開始）
- ▶ 野焼き、放牧などの継続支援や、利用者負担導入検討による草原再生（H29より検討開始）
- ▶ ホーストレッキング等、草原景観を楽しむ新たなアクティビティの開発
- ▶ 絶景の中を走る道路を活かしたサイクリング・ツーリングコース設定やイベント開催



十和田八幡平国立公園

みちのくの脊梁 ～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～

原生自然を堪能する多彩な登山道、昔ながらの趣ある温泉文化を楽しむ。廃屋などの景観を阻害する施設を撤去する**“引き算”の景観改善**により、魅力的な利用拠点にリニューアル

- ▶ ロングトレイル等の多彩な登山道整備
- ▶ 温泉・秘湯・湯治場での外国人旅行者の受入態勢の強化
- ▶ 休屋休平地区、見返峠の廃屋撤去、魅力的な利用拠点として、総合的再整備（H28年度より着手）



霧島錦江湾国立公園

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～

歴史と神話に彩られた火山景観を体感できる多様なツアープログラム開発や多種多様な泉質の温泉を外国人旅行者も楽しめるよう再整備を検討。**上質なホテルの誘致**も行い、各地域を長期的に満喫できる滞在型観光へ

- ▶ 登山と神話をミックスさせたツアープログラムの開発
- ▶ 天然温泉掘り・桜島ナイトツアーなど既存プログラムの磨き上げの検討
- ▶ 外国人旅行者が利用しやすい個室露天風呂などへ再整備を検討
- ▶ 上質なホテルやグランピング施設の誘致（H29より着手）



伊勢志摩国立公園

悠久の歴史を刻む伊勢神宮 人々の営みと自然が織りなす里山里海

リアス式海岸の地形と人々の営みがあわせて作りだす優美な里山里海の景観を望む展望台に**民間カフェを導入**し、ゆっくりと快適な時間を創出

- ▶ 英虞湾を望みゆったりとくつろぐ“天空カフェテラス”の整備（H29より着手）



日光国立公園

NIKKO is NIPPON 自然・歴史・文化 美しい「日本」を感じられる東京圏のプレミアムリゾート

上質なホテルの進出も見据えつつ、世界文化遺産「日光の社寺」、旧大使館別荘、ロイヤルリゾート「那須高原」など日本の歴史・文化を堪能できるよう、**公共施設を民間開放**

- ▶ 那須平成の森フィールドセンターへ、皇族が親しんだ那須の自然を感じながらゆったり休めるカフェスペースの併設など
- ▶ ラグジュアリーホテルの進出などを見据え、富裕層を含む幅広い層を受け入れる環境整備や、旧大使館別荘の活用を検討（H29より検討開始）
- ▶ 外国人にも対応できるプレミアムなツアーのためのガイド育成システムの構築（H29より着手）



共通の取組

民間企業や関係機関と連携した国内外への魅力発信

国立公園のエントランス標識整備による結界感の創出

ビジターセンターにおける公園利用の総合案内

トイレの洋式化などのユニバーサルデザイン化